



糖尿病タイムズ



第4号（平成28年11月28日発行）

だんだんと寒さも増し、今年も残すところ一ヶ月あまりとなりました。これから年末年始にかけては忘年会にお正月、新年会など1年の中でも特に食生活が乱れやすい時期…。食事の管理に加えて薬剤を適切に使うことも重要となってきます。今回は、薬剤の中でも近年登場した、従来の糖尿病薬とは異なる特徴を持った薬剤についてお話したいと思います。

糖尿病薬のご紹介

SGLT-2阻害薬

血液中の糖は、老廃物とともに尿の元となる原尿として腎臓から尿の管（尿細管）へ出ますが、糖のほとんどは体内（血液）へ戻されます。SGLT-2とは、腎臓の近位尿細管という場所に存在するタンパク質の一種で、原尿から糖分を体内（血液）に引き戻す働きを担っています。

SGLT-2阻害薬はその名の通り、このSGLT-2の働きを阻害します。その結果、**本来であれば血液中に戻ってしまう糖分を尿中に排出させることで、血糖値を下げます。**

◆特徴

- ・インスリンの分泌には関与しないため、単独では**低血糖のリスクが少ない**
- ・**体重減少効果**
- ・血圧低下
- ・脂質改善

◆注意点

- ・**脱水に注意！（特に65歳以上、利尿薬を服用中の患者さん）**
- ・**口渇がなくても脱水予防に、普段より多めの水分補給を！！**
- ・**尿路系や性器の感染症（痛みやかゆみがあれば、恥ずかしながら即相談を）**
- ・**皮膚のかゆみ、発疹（特に飲み始め）。発現時はすぐにご相談を！**

Weeklyインクレチン関連薬

インクレチンとは、食事をとった際に小腸から血中に分泌されるホルモンの総称です。分泌された**インクレチンはインスリンをつくっている膵臓に働きかけ、インスリンの分泌などを促し、血糖を低下させます**。また、インクレチンは血糖値が高いときにだけ働くことから、低血糖は生じにくいと言われています。

DPP-4阻害薬とは、そのインクレチンを血中で分解する酵素であるDPP-4の働きを防ぐ飲み薬で、GLP-1アナログとは、インクレチンのうちGLP-1と同様の働きを持つ成分の注射薬です。

マリゼブ®錠やザファテック®錠はDPP-4阻害薬にあたる薬剤ですが、**週1回の服用で1週間効果が持続する**のが特徴です。

一方、トルリシティ®皮下注アテオスはGLP-1アナログにあたる薬剤です。こちらも**週1回の注射で1週間効果が続きます**。さらに、このアテオスという注射器は注射針がもたからついていたり、注入ボタンもワンタッチでOKと、とても使いやすい設計となっています。

◆特徴

- ・**1週間に1回だけ**の使用なので煩わしさが軽減
- ・血糖値が高い時だけ働くので、単独では**低血糖になりにくい**

◆注意点

- ・**決めた曜日に忘れず内服、ご使用を！**



シックデイについて

糖尿病患者さんが何か不意の病気にかかると、血糖値が乱れやすくなり、急性合併症が起こりやすくなります。そのためそのような日を『**シックデイ**』と呼んで、糖尿病の療養生活上、特別な注意が必要な日と位置づけています。

シックデイに該当する病気として、風邪や発熱、下痢、腹痛、吐き気、食欲不振などのほか、外傷や骨折などがあります。また、このような病気の日には、食事を十分に摂れないことから、糖尿病治療薬をいつも通りに使用すると、低血糖になってしまう場合もあります。

シックデイになったときには、医療機関に連絡して糖尿病治療薬の使用方法について指示を受けるようにしましょう。症状が強い場合にはすぐに**医療機関を受診して対処してもらうことが重要です。**

<編集後記>

体調管理に気を付けて元気に新年を迎えましょう！！

発行元：市立三次中央病院

糖尿病療養指導チーム

文責：薬剤師 田畑、中村、宮本

